

「三日月沼のミカヅキモ (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

埼玉県のとちぎ市の三日月沼。人工的に流路を変えたあとの沼とはいえ、関東地方では非常に貴重な存在である。現在の三日月沼は、下の航空写真のような姿だ。



この「三日月沼」で「ミカヅキモ」を見つけてみたいと思い、性懲りもなく、もう一回現地に行ってきた。この日は猛暑日で、軽自動車の冷房はよく効かず、車内にいながら熱中症気味になってしまった。三日月沼周辺には、飲み物の自動販売機がなく、やっと見つけた販売機で、スポーツ飲料を15デシリットル一気飲みして、やっと回復した。



「湖畔」(と呼べるなら)への下り口は、この雑草の切れ目のみである。意外と急な坂だ。坂が急なのは、

「川」だった時代に、蛇行の外側だった名残と考えて良さそうだ。



「湖畔」に下りると、コンクリート護岸にテトラポットが大量に敷き詰められている。三日月湖化してから工事されたとは考えられないので、これもとちぎ本流時代に、蛇行の外側に設置されたものであろう。

それにしても、実に緑色の水である。流れもない。「淀んでいる」という表現がぴったりだろう。



一見して「超富栄養湖」である。透明度は5cmぐらいだろう。水そのものが緑色というだけでなく、何やら不気味な浮遊物がたくさん見られる。もちろん私は、プランクトンネットなど持っていないので、手持ちの空ペットボトルで水を採取するしかない。ちょっと手を入れるのをためらう水面だ。意を決して水を採取。ぬるい! しかも手にべったりと藻がついてきた。